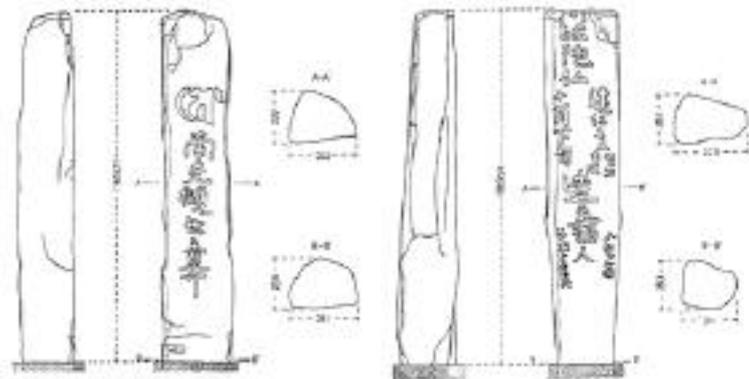




県指定有形文化財 浄西寺石塔婆 (浄西寺三尊碑)

- (ア) 南無阿彌陀仏
建仁二文政
十一月下旬
遺立願人 〇宅正国
〇庵主清原代
(現在右塔)
- (イ) 南无勢至弁
(現在)
- (ロ) 南无観世音
建仁二文政
〇宅正国
(現在左塔)



浄西寺の二基の石塔は、大正時代に油宇の海岸から移したという。名号で阿弥陀三尊をあらわし、本来は南無勢至菩薩を加えた三尊碑として造立されたものである。

南無観世音菩薩の上の梵字は三尊を守護する四天王のうち、増長天の種子「じ」である。「宅正国」の供養のため清原氏が造立した。鎌倉時代初期の建仁二年(一一〇一)の造立で、在銘遺品としては山口県を含む瀬戸内地方最古で、全国的にも早いころの石塔である。

安山岩の自然石に幅広で浅く削った平底彫りの石彫技術も素朴で、断面V字の薬研彫り以前の古様をしめしている。

宮本常一を顕彰する



宮本常一記念事業
本部会長
米安 晟

一、宮本常一の人となり

宮本常一先生は明治四〇年八月一日大島郡東和町に生まれ、文学博士・武蔵野美大名誉教授であり、民俗学者並びに民具学者として活動されました。

宮本先生は、民俗学者として著名な柳田国男氏に匹敵する人として、並び賞された人ですが、単なる民俗学者に止まらず、地域に適した産業の奨励、

実施による地域の振興などにも力を注がれましたので、現在も各地で、尊敬され親しまれています。このことは、なくなられて十八年経った現在でも、宮本先生に関する著書が、次々に発行されていることをみても、並でない方ということがわかります。

ノンフィクション作家として著名な佐野真一氏は、膨大な調査を基に「宮本常一と渋沢敬三 旅する巨人」（平成八年出版）という著書で、『名誉や栄達を超越した研究の徒であった。』と宮本先生を顕彰され、敬意をもって書かれています。

毛利甚八氏は、宮本先生に惹かれて、三年以上も宮本先生の歩かれた道をたどり、「宮本常一を歩く 日本 の 辺境を旅する」（上巻・下巻 平成十年度出版）を出版され、現在でも各地に宮本先生を慕う人たちのいることに驚きをもつた、と記されています。



宮本常一先生

また、旅の達人といわれる高田宏氏は「島へ 十二の旅の物語」（平成十年八月）のなかで「宮本常一さんのふるさと周防大島」を訪ね、宮本先生の奥様アサ子さんや次男

の光さんと話したことが、親しみをこめて書かれています。

このように亡くなられて十八年経った現在でも、宮本先生に関する本が次々に出版され、多くの人から尊敬され親しまれているということでも、宮本先生の立派なことが、伺えます。

また、作家として有名な司馬遼太郎さんは、「宮本さんは地面を空気のように動きながら、歩いて、歩き去りました。日本の人と山河を、この人ほど確かな目で見た人は少ないと思います。」と推奨され、旅行の参考にされたようです。

しかし、宮本先生が単なる民俗学者ではなく、旅するときに訪ねた各地でその地域に合った特産物の生産を助言され、例えば佐渡では柿の生産を奨励され、これが現在の特産物となり、地域を潤しています。

また、民俗芸能の発展に力をそそぎ、田耕氏の「鬼太鼓座」、坂本長利氏の「土佐源氏」、村崎修二氏の「周防猿回し」など現在も盛んに活動しています。宮本先生の仏前に置かれている芳名簿には、これらの方が何回も訪れ、田耕氏は十七回忌にあたり、宮本常一記念事業の一助にと多額の寄付をされたこと、承っています。

二、宮本常一 同時代の証言

から

宮本常一追悼文集から

宮本常一先生は昭和五十六年（一九八一）一月三十日亡くなりましたが、

同年五月一日に、早くも追いかけるように、追悼文集が刊行されています。その文集のページ数は予定をはるかに越え、五八三ページの多きになり、二五六人の方々が寄稿されていて、いかに宮本先生が大勢の人から、慕われていたかが伺えます。

ただ尊敬するというのではなく、まるで自分一人の先生のような、本当に親しみをもち、尊敬の気持ちを込めて書かれています。

その文集の終わりに載せられている学歴・職歴を見ますと、昭和三十六年文学博士の取得、昭和五十二年武蔵野大学名誉教授、昭和五十六年勲三等瑞宝章を叙勲されたこととです。

これは離島振興や、多くの学会活動、郷土研究、民具学の提唱、塩業の調査のまとめなど、数多くの仕事をされたことによる功労が認められてのだと思います。

そのほかの肩書きたるや、二十以上もあります。自分で希望したのではなく、仕事の関係で出された肩書きであることが伺えます。

三、東和町と宮本先生

一（）離島振興と宮本先生

宮本先生は、明治四十年八月一日大島郡東和町長崎に生まれました。東和町との直接のつながりについて見ますと、離島である周防大島の実情から、離島振興の必要性を痛感されました。

そこで昭和二十八年全国離島振興協議会設立に貢献し、幹事長・事務局長を歴任され、東和町のために、離島振興施策として、沖家室大橋の建設に力を尽くされ、実現させました。沖家室の人がどれほど喜んだか、図り知れないと思います。昭和五十六年完成を待たず亡くなられましたが、自分の名前が出さず全国の人の協力により出来たのだと記すよう、強調されていたと聞いています。

宮本先生は郷土の復興を実現するための手始めの事に、民具の収集から手がけることを教え、東和町でも実施され、これが現在では東和町長崎にある文化財収蔵庫となり、またその傍らに農村交流伝承館（服部屋敷）も建設されています。

このほか全国市町村史のお手本となる東和町誌の編集などの仕事をされましたが、市町村史の編纂については、隣の久賀町史をはじめ、全国の市町村史に関する書籍が、宮本家の文庫に数多く残されています。

二）郷土大学と宮本先生

亡くなられる直前の昭和五十五年（一九八九）には郷土大学をつくられ、学長として郷土の歴史を講義、若手の育成に努められました。

短い期間でしたが、自ら郷土史の講義を行い、『得た知識を東和町でどう実践して、日本のへきすつの地である東和町でなく、我々にとつて東和町が、この地球の真ん中である。そつという意

欲を持って町づくりにいそしむ、これが新しい郷土主義のほんとうの姿です』と説かれました。

私は宮本先生が亡くなられて学長におかれ、現在に至っています。先生の亡き後、学んだことを東和町の内外で実践することが先生の意思を継ぐことと考えました。

この考え方に従って、現在では郷土大学に学んだ人たちが、郷土の中堅となり、農業・水産業・商業・役場・農協・教員・郵便局・僧侶・議員さんな



郷土大学にて郷土史の講義

ど、いろいろの職場や領域で活動していますし、一月か二月に一回集まって勉強会を開いています。

面白いのは宮本先生から、みんな強い影響を受けているのですが、それぞれ受けとりかたが異なっているということです。しかし良い東和町を作ろうという考えは、共通しているのです。

三）宮本常一記念事業

策定審議会について

宮本先生が亡くなった後、当時の町長柳居俊学氏が町議会に諮り、審議会規則が昭和六十一年九月に制定されました。

主な審議事項は

宮本常一記念事業の構想策定に関すること。

前号の記念事業にかかる地域の振興計画に関すること。

となつていて、現在も続いています。

会長は町長であり、その下に二つの部会、専門部会と推進部会があり、年一・二回集会を開催しています。

これまで東和町では文化財収蔵庫の建設、服部屋敷の復元（農村交流伝承館）などを記念事業の一環として実施してきました。

しかし宮本記念館など宮本先生に直接関係のある事業については、宮本家のじゅうぶんな了解が得られないまま、今日に至っていました。平成八年の宮本常一十七回忌を機に、了解が得られました。

それに宮本家からの図書・写真・原

稿・講演テープ等をまとめて宮本文書館（案）として保存すると共に、これらを整備して日本全体の資料としてまとめ、インターネットで活用を図るなどして、宮本先生のいわれるように東和町が日本の中心になるよう事業を進めて行けたらと考えます。

なお、東和町では陸奥記念館、なぎさ水族館などがあり、これに文化財収蔵庫、農村交流伝承館を加えると立派な総合博物館ということになります。

これら、すでに出来ているものをまとめ、宮本文書館を中心に、東和町出身の立派な方々の業績も合わせ、東和町ふるさとづくりの中心とするようにして行くことが、宮本先生の意志を継ぐことになるのではないだろうか。

宮本常一家の蔵書・撮影写真フィルム・原稿類が東和町へ寄贈されることについて

一、驚異的写真家宮本常一

十万余枚に及ぶ写真記録

東和町長崎出身で、名誉町民・文学博士・武蔵野美大名誉教授など数々の肩書きを持つ、民俗学者の宮本常一先生のご家族から、膨大な量の蔵書・写真フィルムなど宮本先生生前活動の基となつている貴重な資料の全部を、東



和町に寄贈するという申し出がありま
した。これまで宮本常一記念事業を進
める上で、どうしても把握できなかつ
たことの一つに、写真が果たしてどの
くらいあるか、解らないことでした。

たまたま府中の宮本家で書庫に雨漏
りがするので、建て替えるということ
を伺いましたので、宮本千晴さんにお
願ひして、図書の冊数と写真の数をあ
たることに致しました。

ここで驚くことに行き当たったので
す。それは宮本先生の写された写真数
が、九万枚から十萬枚に及びそうだと
いうことです。その大半が全国を旅し
たときの、列島改造前の写真で、今と
なつては写そうにも写せない写真が殆
どで、他に祭りや行事、民具や古い絵
巻物の写真などです。全国をただ歩い

ただけでなく、その記録を写真として
残したことになるのです。

二、宮本常一家の

蔵書・写真・フィルム

東京府中市の宮本邸（現在長男千晴
さん在住）並びに山口県東和町の家
（宮本常一先生の奥様アサ子さんと次男
光さん夫婦在住）には、宮本常一先生
ゆかりの、蔵書類・写真類ほか収納
されています。

このたび宮本家の好意により宮本常
一先生に關係する図書・撮影写真フイ
ルム・自筆原稿その他を、東和町に寄
贈されることになりました。実際に当
たつて見ると、その膨大さに驚くばか
りです。

内 容

図書類 宮本常一著作 単著共著
監修 編集などの図書

著作のための参考図書類
學術雑誌他 宮本常一投稿
依頼原稿など

原稿 ノート 日記類
書簡 宮本常一宛のもの
写真 フィルムとアルバム

その他関連のあるもの
以上は概要ですが、図書・写真フイ
ルムなど、あまりにも膨大なため、ま
だ全部をまとめきれないでいるのが現
状です。

概要についてまとめてみますと次ぎ
のようです。

一（一）図 書 約二万冊

図書については府中にある宮本家の
一室が書庫になっていて、書架の棚の
長さの合計が約二百八十メートル、冊
数にして一万数千冊、それに学会誌・
雑誌類がダンボールに約二十箱ありま
す。

また、東和町の宮本家の元書庫には、
宮本常一著書・共著・監修図書ほか、
農林水産業・経済歴史関係図書

約五千冊
古文書関係図書 ダンボール十箱
武蔵野美大教育関連図書

ダンボール十箱
などがあり、両者合わせると、図書二
万冊以上となると見られます。

このほか 放送台本・ネガ・スライド
などが保存されています。あまりにも

膨大な資料のため、全体についての把
握は、まだ出来ていません。

二（一）宮本常一旅行中の

撮影写真約十萬枚

（一）これまでの写真

宮本先生が旅行中に写されたフイ
ルムのなかの七八〇本が、写真焼き付
けを終わり、枚数四萬三千枚までは、す
でに東和町企画課で、アルバムとして
処理されています。

今回調査しましたところ、写真フイ
ルム数はさらに増え、フィルム総数約
一、六六〇本、写真は三十六枚撮りフイ
ルムをハーフサイズで写されているも
のが多く、概数では約八萬枚になると
見られます。

（二）写真整理

（フィルム・アルバム類）
フィルム総数 約千七百本日本の
旅行中に写されたフィルムが主で、
ほかに中国・アフリカ民具・近世
風俗誌などの接写を含む

このなかで東和町すでに焼付けを
終わったもの
焼き付け写真数 四五、二五二枚

（三）宮本先生が旅行中に

撮影したもの

一、一六二五本

内 欠数 一四三本
差し引き 小計 一、四八二本

（四）民具・埴輪・近世風俗誌など
接写 四一本

その他 四四本
 小計 八五本
 合計 一、五六七本

(五) アフリカ

小計 九二本
 合計 一、六五九本

以上のなかでフィルム 七七八までは、東和町ですでにサービスタイズに焼き付けられアルバムに納められています。

(六) 写真枚数

一、七七八まで

小計 四一、二五二枚

七七九、一六二五まで

推計 四四、八〇〇枚

宮本先生は三五ミリフィルムを用いて写真撮影されているため、三六枚撮りと八ーフサイズ七二枚撮りで写されているものの二種類があるため、正確な数をまだ把握できていませんが、フィルム一本当たり五三枚撮影されているとすれば全枚数

推計 約八六、〇〇〇枚

という膨大な写真数となります。

じつはこれでほぼ枚数が確保できたと思つたのですが、東和町の宮本家の書庫に、おおくの図書(主として農業・漁業・塩業関係の図書)と、フィルム約一八〇本、スライド約五〇〇枚など、図書もタンボールに入った未整理のものもあり、宮本先生の仕事の広さ深さの計り知れないことをつくづくかんじます。

(三) アルバムの整理について

TEM研究所川崎和彦さんが、平成五年四月二四日までに、フィルム 七七八まで欠フィルム数の調査を終わっています。

(一) 宮本先生のフィルム台帳

宮本先生のフィルム台帳には一、一五五まではフィルムのフィルムと呼び出し名称と、簡単な写した場所など)の説明があり、写真の撮影場所などが、記載されています。

しかし一枚一枚については、記録が少なく、未整理となっています。

(二) アルバム

宮本家にはフィルム以外に一二〇冊のアルバムがあり、これには写真を写した場所ほか記されていますので、東和町で作られた、アルバムと照合すれば、写真の撮影場所・時期について知ることができます。

(三) 東和町での写真整理

平成四年五月十三日から五年四月二四日までに 七七九から 八六九までアルバム整理終了(サービスタイズ版焼きはまだ)

以上 川崎和彦さんの記録による
 東和町での写真整理
 七七九までサービスタイズ版をアルバムに整理済み (四一、二五二枚)

写真については、まだこれ以外のフィルムや写真があり、今後も整理を継続する必要があります。

(四) 図書・写真ほかの

受入方法・管理方法について

東和町では受入について、準備を進めています。

宮本家では府中の家を改築する予定があり、建築の始まる平成十一年四月頃に、東和町に宮本家から寄贈図書ほか一切のものを東和町総合センターの二階に受け入れ、有効な利用方法について、今後相談することになっています。すでに、これまで東和町・周防大島・瀬戸内海など、宮本先生の写された写真のアルバム作りを実施しており、今後も継続することになっています。

(五) 図書写真の管理方法について

貴重な図書の散逸を防ぐと共に、有効な利用方法等について、委員会を作るなどして相談することも必要かと考えられます。

(六) 宮本文書館の設立について

一案として、写真フィルム・アルバムなども多いことから、図書館から切り離して、宮本文書館(もんじょかん)としてこの膨大な資料をまとめたらどうかと考えています。

(七) 宮本家所蔵図書・写真の

価値について

(一) 図書について

このたび東和町に図書が寄贈されるについて、著作目録を宮本千晴さんが作成中ですので、明らかになると思

ます。

これまでに、昭和五六年(一九八一)一月三十日宮本先生が亡くなられた後、一九三二年から一九八一年までのものを武蔵野美大田村善次郎教授が、「宮本常一著作目録」としてまとめられたものがあります。

(二) 図書・写真の受入・整理を

するための委員会

これら宮本先生の資料は、ただ東和町に保存するのではなく、全国的に働きかけて、整理の方法・活用法を相談し、有効な利用を図ることが大切と考えます。

そのためには、まず東和町の受け入れ体制を充実して置くことが、最も必要なことだと考えます。



民具調査の指導(東和町下田)

宮本文書館(案)の建設と博物館・図書館などの文化施設について

一、宮本文書館の設立について

宮本先生の膨大な図書・写真・資料が東和町に寄贈されることになりました。これを受け入れるために、宮本常一図書館を造り、受入れてはどうかと考えました。

文書館とは聞き慣れない言葉ですが、図書以外の写真・フィルム・ビデオなどを中心にした図書館・資料館を合わせたものと考えてよく、規模も小さくて良いのです。

最近、東和町にはいろいろな施設・建物が設置されています。民俗資料収蔵庫・服部屋敷(農村交流伝承館)・道の駅・陸上競技場などが、東和町長崎の埋立地にでき、かつては海だったところが、見違えるようになっていきます。

また平野・森には東和ふるさとセンター・町総合センターが、陸奥記念館・なぎさ水族館が伊保田に、片添ヶ浜海浜公園・サンスポーツランド片添などが東和町南側の海岸にと、次々に驚くほど多くの施設・建造物が誕生しています。

そのほか、長崎・平野海岸の埋め立て工事・護岸工事・大規模農道・沖家室大橋と、土地利用・道路も整備され、便利になってきました。

このなかには宮本常一記念事業に関

係するものも含まれていますが、いろいろの事業が混ざって複雑です。記念事業の将来、東和町の将来を考えるために、建築物・施設などについて、基本的なことから、整理しながら、文書館について考えてみました。

二、変わってきた博物館・記念館

記念館

宮本常一記念事業の参考にするために博物館・美術館・記念館・図書館などを約三十館見学しました。これらを見学して解ったことは、以前と違い名称から内容に至るまで、大きく変わりがつあることです。十年前のものでも新しいものに作り替えていたり、ここ十年で大きく内容も活動も変わっています。名称も親しみ易くなって、堅苦しさを無くし、市民のなかにとけ込んだ施設となっていて、これからの博物館・図書館のあり方を示しています。

いまさらと思つかもありませんが、宮本常一記念事業をまとめる意味からも、記念館・博物館・図書館・文書館・資料館等について区分・内容を整理して見ました。

一(一)博物館とは?

博物館法によりますと

物を調査し研究する機能
物を収集し補充する機能
物を公開し教育する機能

を持つている施設といふことになりま

二(二)運営上から

継続的な展示施設・設備を備える
オリジナルな資料(実物)を収蔵
している

職員による独自の公共的運営
継続的な一般公開

以上四点が満たされたものを博物館
といえます。

ただ、運営面では学芸員の資格が必要
といふことになります。

三、博物館法に基づく

登録博物館には

博物館 総合・歴史・民俗・美術・科

学・野外などの博物館

また、博物館相当施設としては

動物園・植物園・水族館・自
然科学センター・プラネタリ
ウムなどがあります。

東和町には博物館相当施設も多く、
文化財収蔵庫ほかをまとめれば、立派
な博物館ともいえます。

以上のように博物館はいろいろな幅の
広い内容を持っています。

一九六〇年以降各都市では地域活動
の一つとして大阪市立自然博物館、横
須賀市立自然・人文博物館、平塚博物
館などが生まれ、地域活動が盛んにな
りました。建物は独立した施設もあれ
ば、同じ場所に併設したもの等があり、
それぞれ特色を打ち出しています。

一(一)宮本記念館と図書館・文書館

宮本常一の膨大な資料を整理し、ま

とめるためには、宮本記念館をどの施設に組み入れるのがよいか考慮する必要があります。

図書館・文書館との違いは

図書館とは図書館法によれば
図書館は資料提供によって住民の
学習権を社会的に保証する機関
です。

資料を収集し、整理し、保存して
一般公衆の利用に供し、その教養、
調査、研究、レクリエーションな
どに資することを目的としていま
す。

著書の原稿が印刷された図書資料
を中心としています。

文書館とは

ある特定の機関、団体ないし個人
が組織的・社会的活動を遂行する
過程で作成されたり、受け取った
りしたさまざまな形式での記録情報
を、一括して保存・整理し、調
査・研究のうえ公開する機関のこと

主たる対象となるのは、文書記録
であるが、写真・ビデオテープ・
録音テープ・レコードなどもその
対象に入ります。

関連する全国歴史資料保存利用機
関連絡協議会の活動も活発である

以上、図書館・文書館・博物館につ
いて比較しましたが、宮本先生の膨大
な写真・放送録音・ビデオ・図書など
の整理・保存・公開の方法・名称等
について考えると、宮本文書館が適当と
考えます。



四、宮本文書館の運営について

宮本文書館の価値は、見る人がみれば、その価値は計り知れないものがあり、写真にしても全国的で、学問的にも今後の日本を考える上で貴重な資料です。

速やかに利用しやすいよう写真整理、図書整理する必要があります。現在はパソコンなどを利用する必要があります。現在はパソコンなどを利用する方法も開発されています。たとえば写真をパソコンに取り込むにしても、フォトCD・デジタルカメラ・フィルムスキャナ・イメージスキャナなどを使うさまざまな方法があります。

インターネットで全国に流すのは簡単ですが、速やかに東和町で基礎固め

をしておかないと、どうにもならなくなりま
す。あまり金をかけない
いで実施する方法など、
どの方法がよいか実験
中です。
受入委員会など、組
織作りを行い体制を整
える必要があります。

五、見学した施設

宮本常一記念事業の
参考とするため、博物
館・美術館・図書館な
どを見学してきました
が、その主なものは次
のとおりです

博物館に入るもの

- 国立歴史民俗博物館
- 東京国立博物館
- 国立科学博物館
- 科学技術館
- 東京都写真美術館
- 世田谷文学館
- 世田谷区立郷土資料館
- 文京ふるさと歴史館
- 台東区立下町風俗資料館
- 佐倉草笛の丘
- 川崎市立日本民家園
- 川崎市立青少年科学館
- 箱根町立箱根湿生花園
- 町田市ダリア園(福祉事業)

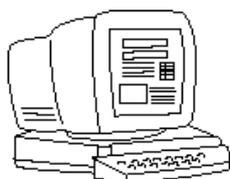
などです。
図書館では

- 町田市立中央図書館
- 伊勢原市立図書館・こども科学館
- 厚木市立中央図書館
- 川崎市多摩区図書館
- 平塚市立中央図書館
- 藤沢市立総合図書館
- 武蔵野市立吉祥寺図書館
- 東京農業大学図書館

参考図書では

- 新しい地域博物館活動
- 市民の中の博物館
- 建築設計資料
- 博物館・資料館一
- 図書館二
- 植物園・温室・緑化関連施設
- 道の駅
- これからの図書館
- 図書館のある暮らし
- 生涯学習と公共図書館
- 道の駅
- ふるさとアクセスブック
- 景観づくり・むらづくり
- パソコンで写真・ビデオ
- 農業情報化年鑑
- 学芸員・司書
- インターネットで自然な暮らし

等です。



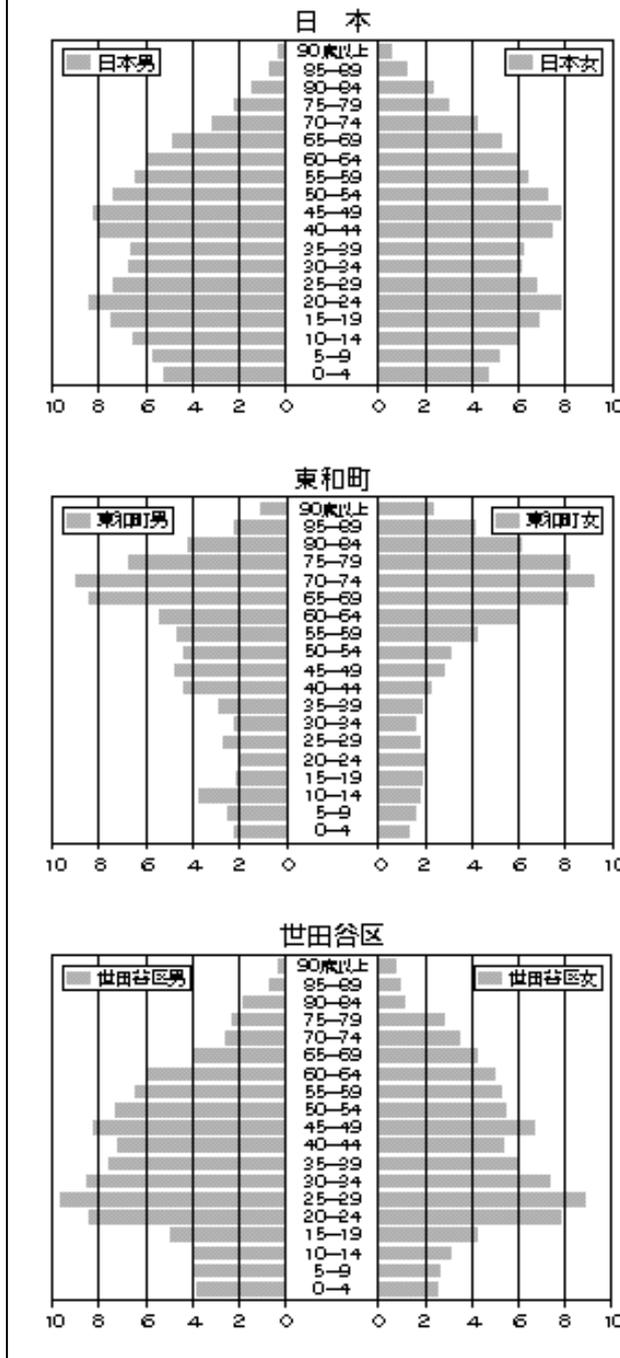
高齢化より少子化に気を付け対策を立てよう

一、日本の人口ピラミッド

東和町といえば高齢化というのが、まるで通り相場のように、取り上げられています。昨年七月に東和町で「高齢化時代と農村整備」というテーマで農村整備事業の研修会がありました。このときに日本全体・東京都世田谷区・東和町の各人口を比較するために、年齢別・男女別に%に換算し、人口ピラミッドにして比較しましたが、第1図です。都市と農村の年齢別人口の分布の特徴が比較できます。

日本全体の人口の現状をみますと、戦後のベビーブーム(回魂の世代)と約二五年後に起きた第二次ベビーブームにより、二〇才代と五〇代の青壮年多くひょうたん型となっているのが特徴です。続いて年の状況を知るため東京都世田谷区の人口ピラミッドを作ってみました。と「つば型」で、二〇才代から三〇才代が多く若者の街で、地方から青年が東京に集まっていることが想像されます。これに対し、東和町は逆ピラミッド型で、高齢者が多く、青少年が極端に少なくなっています。東和町を日本の農漁村の代表と考えると、世田谷区の人口構成は明らかに農漁村の若者が都市に集中している農漁村で減り、農村に高齢者が多く、都市に青年層の多いことが解ります。地方の人とお金が都市に集中しているというのはこのこと

【第1図】年令別・男女別人口構成割合(%)
(人口ピラミッド)



1. 日本(ひょうたん型)

太平洋戦争前のピラミッド型が、戦後のベビーブーム(団塊の世代)と約25年後に起きた第2次ベビーブーム(団塊ジュニア世代)により、ひょうたん型となっている。

2. 東和町(逆ピラミッド型)

日本で最も高齢化の進んだ東和町は逆ピラミッド型となっている。

3. 東京都世田谷区(つぼ型)

青壮年が多く、幼少年の少ないつぼ型を示している。
青壮年の都市集中の形を示している(地方町村の青壮年減少と表裏)

です。このようなことが何時起こったのでしょうか。

二、若者の時代から年寄りの時代へ

東和町誌によりますと、昭和三三年八月一日の東和町人口は、世帯数四、八二五世帯・総人口二〇、三

九五五(男九、二〇二人、女一、一九三人)でした。

これが平成十一年一月末日の東和町では、世帯数二、八四五世帯・総人口五、五九八(男一、三七三人、女三、二二五人)となっています。世帯数は五九%、人口は二七%で実に四分の一に減っているのです。これが戦後五〇年経過した東和町の人口推移です。

三、昭和二五年(一九五〇)の(人口ピラミッド)と平成十年(一九九八)の人口ピラミッドの比較

(第一図は人口を%に換算して比較してあるのに対し、第二図、第三図は実数の比較ですので、第一図と若干形が異なります)
大島郡全体と東和町の違いはありま

すが、昭和二五年と平成十年では、第二図・第三図のように人口ピラミッドの形が全然違ってきます。昭和二五年は二〇才以下の若年層が多く、安定したピラミッド型です。このころの東和町の人口は二万人以上でこの図の但し書きには、「大島は子供と青少年の島。老人はほんの僅かである」と記されています。
今はどうでしょう。第三図のように、平成十年は完全な逆ピラミッド型になっています。六〇才から八〇才がもっとも多くなっていて、反対に現在は三〇才以下が極端に少なくなっています。
これは先に述べましたように、現在は都市に青少年がでて、東和町は高齢者だけが残ったことを示していて、農漁村の全国的な傾向ですが、特に長命者の多い東和町に、その特徴がでていとみられます。

四、高齢化から少子化の時代へ

東和町のこれから十年後・二〇年後を、想像してみてください。長生きだといつても、現在もつとも多い七〇才から八〇才の人は、いなくなるのです。高齢者がいなくて、しかも青少年がいなくなると、東和町はどうなるのでしょうか。少子化がむしる大問題であることが、日本一の高齢化の影にかくれて進んでいるのです。なんとなく解っているだけでは、どうにもなりません。現状をよく把握し、速やかに対策を建てる必要があります。

五、問題点と今後の対策

昨年どこかの新聞で、少子化対策について東和町を取材した記事が載っていました。全国的にもほとんど対策が建てられていないこともあって、外国の例などが載せられていました。このままでは東和町はどうにもならなくなります。何とかしなければなりません。

私はすでに十年前に、東和町の人口予測をしました。すると、東和町に直接住んでいる人は少ないが、東和町に在籍して都会で生活している人が、三万人もいることが解りました。

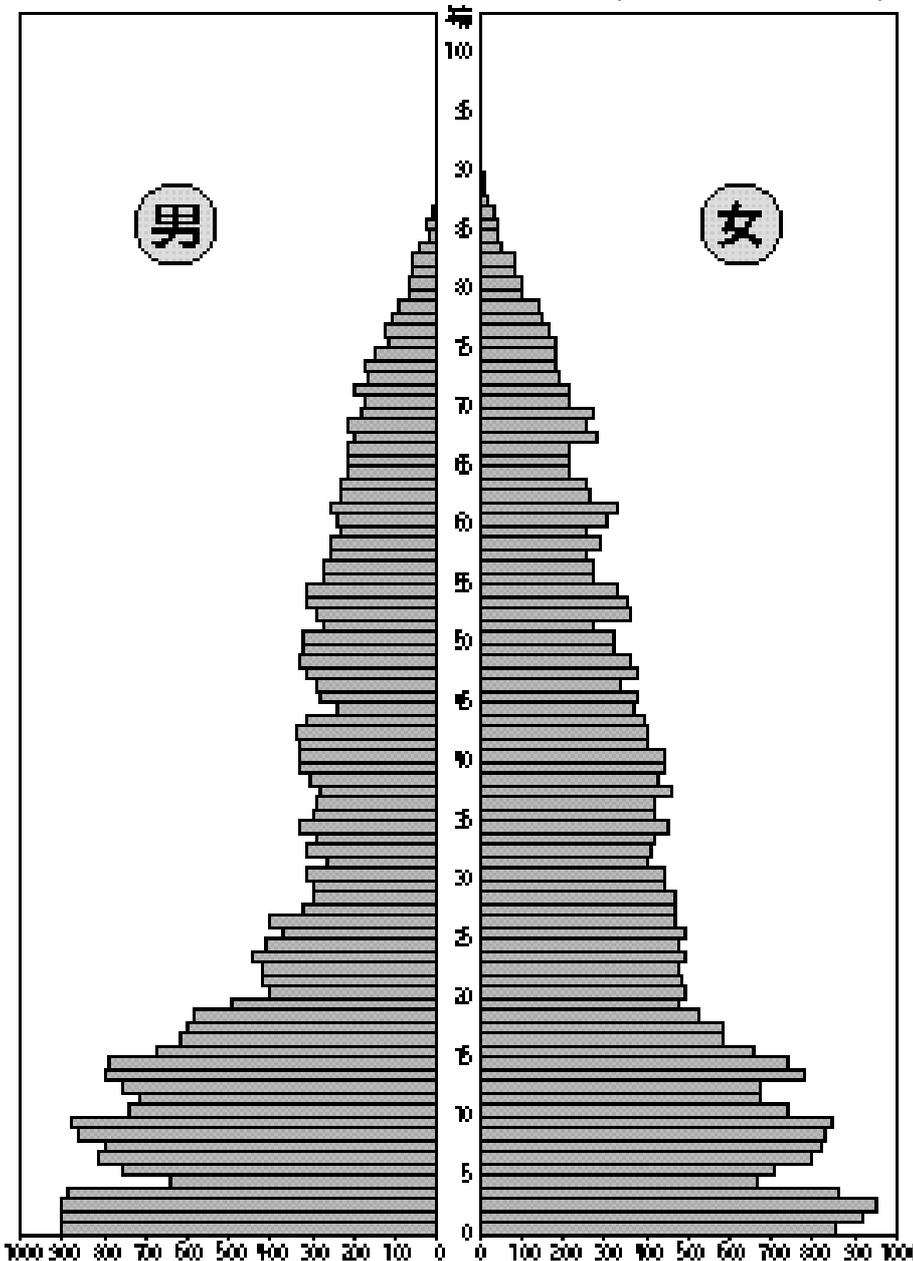
当時の柳居町長が東京・大阪・広島・福岡市などの東和町出身者に働きかけて、町人会が出来ました。年一回町人会が開かれています。東和町ではすでにUターン者の受入など対策をたてていますが、今一步受入対策が十分のようです。ただ戻ってくださいだけではなく、Uターン希望者とよく話し合い、希望を受け入れて対策をたてることが大切だと思います。

六、受入対策の充実へ

現在私は一か月に一回東和町に帰っています。これからも継続するつもりです。現在東和町長崎で野菜作りをしながら、野菜作りのグループを作っています。宮本家からの図書・写真の受入の手伝いと同時に、私の持っている野菜作り・花作りなどの農業図書を持

【第2図】大島郡年齢別人口構成

(昭和25年10月1日現在)



昭和二十五年当時、大島は子供と青壮年の島。老人はほんの僅かであった。

『東和町誌』から

ち帰り、農業の相談を聞きながら、Uターンされる方の農業のお手伝いもしたいと考えています。
パソコンも整備して、ネットワーク作りも行ってきたと思います。外に働きかけるまえに内部の充実を図ることが大切です。そのうえで外部に働きかけないと、良い成果は上がりません。お互い協力して良い郷土を作りましょう。宮本先生もこれを望んでいると思います。

東和町人口(昭和二十三年八月一日)

計	白木	森野	和田	油田	世帯数戸	人口総数人	男人	女人	一帯あたりの
四八三五	二〇四六	八八二	七〇四	一一九三					
二〇三九五	八三八七	三七五一	三二四八	五二二九					
九〇二二	三七七六	一六一八	一四五五	二五五三					
一一一九三	四六一一	二二一三	一六九三	二七七六					
四・二	四・一	四・二	四・五	四・三					

『東和町誌』から

人口と世帯

平成11年1月末日現在の
住民基本台帳(前月比)

世帯数	男	2,845戸 (-7)
人口	男	2,373人 (-1)
	女	3,225人 (-6)
	計	5,598人 (-7)

東和町広報 1999.2月号

新藤兼人監督、東和町へ



宮本常一記念事業
推進部会長

新 山 玄 雄

最近とみに、多くの人々が東和町を訪れてくるようになった。

なんといつても高齢化率日本一の町である。この町は、これから本格的に高齢化社会を迎えるわが国の何歩も先を歩んでいる。その先進地、最前線ともいふべきこの地に何か、参考になるものがないかというわけだろう。

そこで、多くの人が見るものは、老いても生涯現役をつらぬき、自助と共助の精神をもったお年よりである。そのたくましさにびっくりする。たくましくならざるをえない側面があるが、それにしても元気で明るいお年よりが多い。

そこへ、元氣老人のシンボルともいふべき新藤兼人監督がやってきた。彼はこの四月で八十七才、日本映画界を代表する監督である。

今回の訪問は、NHK、ETV特集「新藤兼人の大老人日記」の収録のため

である。私はこういう時、来町された方に町の人々と話をし、交流してもらいたいと思う。さっそくお願いしてみました。

あつかましいお願いだったが、ころよく了解して下さり、とんとん拍子に話がすすみ、映画会もしようということになった。町の総合センターで開催とも考えたが、番組の性質上、お寺の本堂がいいということで、泊清寺を会場とすることになった。

二月七日、午後一時半から、「新藤兼人監督と映画を観る会」がはじまった。上映する映画は「午後の遺言状」。これは乙羽信子さんと杉村春子さんの最後の映画出演となった話題の作品だ。

広島映画センターのスタッフで映画を上映して頂いた。映画の内容もすばらしかったが、その上映あとの新藤監督のお話がまたすばらしいものだった。満堂となった本堂で膝を交えながらの話である。

「老人になるといふことは、一般に諦観に達して、仏さんみたいな境地になるように思われがちです。しかし、実は、そうではない。私が年をとって気がついたことは、年をとればこるほど、やり残した仕事に未練が残ったり、先

します。これまで人を傷つけたり、傷つけられたりした無念の思いがあります。むしろ、エゴがむきだしになるんですね。私をふくめて、老人は、たくさんのおなまなましいものを抱えて生きてきたし、いまもそのなまなましさの中で生きています。」

「一年に一回挫折するとすれば、私は今、八十六才ですから、八十六回も挫折してきたわけです。しかし、今、生きていくということは、その挫折を乗り越えてきたということです。そのだれもがもつ自信と栄光を忘れないで欲しい。過去があつて、今があるのだから。」

そして、去年おなくなりになられた奥様の乙羽信子さんのことにふれられ、「乙羽さんが亡くなって、ちっとも寂しいことはありません。私は今も彼女と心の中で語ることが出来るし、今でも新しい発見がありますよ。あまりみっともないことをしていたら、彼女にしかられそうで、だから一生懸命がんばって生きています。」

「乙羽さんはガンに冒されていたのですが、最後まで仕事をして亡くなりました。『午後の遺言状』を撮り終えて、その完成作品を見て亡くなったのです。その彼女の姿を見て亡くなったのです。その彼女の姿を見て、やはり人間は、生涯現役で、死ぬまで役割をもち、自己実現をしていくことが大切だと改めて強く感じました。」

長年つれそつた乙羽さんがお亡くなりになって寂しくないわけがないと思

つたが、新藤監督の表現はとても明るく、さわやかなものだった。いろいろと体験をもとにされたお話を下さり、その言葉は参加した多くの人の胸にしみこんでいくようだった。

番組は、新藤監督が町内のお年よりとふれあい、話し合う様子がいていねいに紹介されていた。この町にくらすお年よりが様々な思いや悩みを抱えながらも、生き生きと元気に、ささえあっている姿がよくとらえられていたと思う。

「ご自身の老いを精一杯生きながら、多くの人に人生の応援歌を送り続けている新藤監督とこの町のお年よりの出会いは、しみじみとあたたかく、多くの人に静かな感動をあたえたようである。」

新藤監督のまなざしは、全国をくまなく歩き、そこに住む人々をげまじし、勇気を与え続けた宮本常一先生のそれと同様のものだ。

高齢化率日本一の町、東和町。これからこの町に多くの人々が訪れてくるだろう。全国が目が注がれているのだ。その期待にこたえる町でありたいと思う。私たちがこれまで取り組んできた宮本常一記念事業のささやかな営みもそのことにつながっている。



論壇

旅に学ぶもの

宮本 常一

旅のたのしさは旅先で、それまで予想しなかったよい人に逢うことであり、思いそめぬものを見ることであり、また、新しいことを発見することである。汽車に乗って同じ線を何回通っても、そこに何らかの発見が毎回あるものがある。同時に、旅をするたびに一つの課題を持って乗ってみることである。たとえば、民家の屋根がどんなに変わっていくだろうか、というようなことを一つの課題にして見ていくとする。



若かりし頃の宮本先生

昭和二十年までは、東京を出て熱海に至るまではトタン葺の屋根が多く、屋根は寄棟が多かった。遠州平野は昭和三十年頃までは草葺の入母屋が多かったが、近頃は黒瓦に変わった。中には草葺の上にトタンをかぶせたのも見かける。それが愛知県へ入ると切妻の瓦屋根が多くなり、名古屋をすぎると、また入母屋になる。そして、入母屋はずっと下関まで続くのだが、広島県の三原から広島までの間は赤瓦が多くなる。

見た眼にはそれだけの現象だが、それについてまたいろいろ教えられる。神奈川県下にトタン葺が多いのは、関東大震災のとき瓦屋根の家は多く倒壊したが、草葺の家はほとんどつぶれなかった。つぶれなかった草葺はそのまま住んだが、つぶれた家はトタン葺に変わったという。災害は忘れられた頃にやってくるという。近頃ひ弱な感じのする新興住宅がずいぶんふえて来たのだが、もし、大きな地震がおこったらどういふことになるだろうか、新しい家を見ていてすぐ不安になるのである。

寄棟の家は草葺の頃に多かった。と

ころが明治に入って、いたるところで蚕を飼うようになった。蚕を飼うと上簇のときには広い場所を必要とするので、座敷ばかりでなく天井裏を利用するようにになった。しかし、天井裏は暗いので両側の屋根を半分ほど切り落として、そこから光をとることにした。このような屋根をカブトといった。最近蚕をあまり飼わなくなったから、家を改造するときカブトにしくなくなった。そして、始めから二階にするようになった。

入母屋の家が多いのは、草葺で煙突をつけることができなかつた頃、家の中にこもつた煙を破風から出すことができるので、破風のある入母屋が喜ばれたようである。そして、屋根が瓦葺になって煙突をつけても破風のある屋根は作つた。

愛知県三河のあたりに切妻の家が多いのは、もとその奥のあたりに切妻の家が多かつたことによるという。飛騨から木曾へかけては、昔は板葺の家が多かつた。板葺の家は切妻が多かつた。そして、この地方の大工は切妻の家を作ることを得意にした。山間の人々は草葺よりも板葺屋根の方を佳としたので板葺根が広がってゆき、板葺根が瓦葺になつても切妻にしたものだという。また、そういう屋根の家を作るのは飛騨や木曾の大工が多かつた。

このような話は無限にひろがつていく。注意して見ており、それを何かの機会にその地方を歩いたとき土地の人に聞いてみる。これは屋根ばかりでな

平成11年3月26日 東京農業大学にて
専門委員の先生方や宮本千晴氏にご参集
いただいた開催された専門部会



く、あらゆるものについてためてみる事ができる。物には変わっていくものが多いが、根本においては変わらないものも多い。何が変わり、何が変わらないのか、何が消え何が残るか、十年も二十年もためてみるといふことを教えられる。だから旅は楽しく、また旅によつて実に多くのことを教えられる。